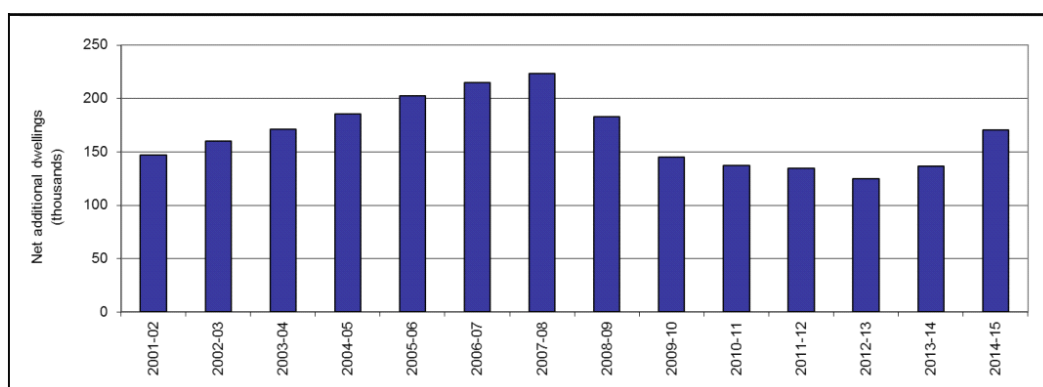


英国の住宅着工戸数が増加傾向に！

11月20日、英国のコミュニティ・地方自治省の発表によりますと「英国の住宅着工戸数が2008年から減少傾向にあったが、2011年から上昇傾向に転じ、2014年には18.6万戸に達し、これまでの最高の伸び率となり着工戸数では2007年の22.3万戸、2008年19万戸に次ぐ数字となった。」とクラーク大臣は述べています。



英国の2001年から2014年までの住宅着工戸数の推移 (出所:英国統計局)

クラーク大臣は、「この傾向は大変喜ばしい。この5年間で新築住宅戸数は753,000戸となった。今後、さらに増え続ける住宅需要に答えて行く為に、多くの新築住宅も必要になる。この為、これまで1920年から始まった国の住宅計画の進め方の改革を実施して来たが、その一つ、地方自治体に権限を委譲して来たことが良かったと思われる。権限委譲によって、地方自治体が居住者の声を取り込み、開発計画はどうあるべきかについて議論する機会を与えている。」と述べています。



ロンドン郊外の、一見戸建て風に見える新築の連結住宅 (出所: Web)

まもなく国会に新しい住宅計画法案が提出され見込みです。この法案のポイントの一つは **Affordable Starter Homes** と言う、初めて住宅を求める国民つまり若者（スターター）が持てる様な住宅（スターターホーム）を 2020 年までに 100 万戸供給することです。このことはスターターホームの供給は地方自治体が主体となり、地方の新しい開発サイトでスターターがスターターホームを入手できる様に、促進しフォローして行くことを地方自治体に課せられることです。原則として住宅供給の場所は **brown field** と呼ばれる住宅建設が許可された場所ですが、工事によってグリーンベルト（緑化地帯）が痛めつけられない様に保護されているかどうか監視するのも自治体です。それと地元の小規模建設業者を支援するための施策も、地方議会で立案することも課せられることです。

先進国では年々、若者が住宅を持てること自体が容易ではありません。英国も例外でなく、近年の住宅価格の上昇、特にロンドンを中心とする英国南部の住宅価格の上昇は著しく、若者の住宅所有の夢を打ち砕いているのが現状です。この様な状況の中、政府も **Affordable Starter Homes** と言う、若者の夢を叶えるキャンペーンを打ち出そうとしています。

今後、**Affordable Starter Homes** は何も新築に限らず、中古住宅でも可能な訳で、この為中古住宅のオーナーへのインセンティブや購入意思表示の若者へのスターターローンも検討されていると言われています。

日本の特に大都市圏在住の若者は、英国と同じ様な状況と思われますが、国や自治体、あるいは金融機関は **Affordable Starter Homes** の考え方を検討しているのでしょうか。若者は次世代を担う大切な人材です。若者が将来を見据えてしっかりと定住出来る様な国の施策を期待します。（了）